

目的 出版に対してのメンバーの率直な考え方を聞くこと

出版計画 計6つ

出版1 (Springer)について

*原案:シンポジウム(台湾、2009年)のproceedingsをSpringerから本として出版する。

*対案1:シンポジウム(台湾、2009年)でproceedingsは出すべき。(今年秋)これを内部評価に使う。
ただし本については、後に残るものなので、proceedingsが出た内容をもとに1,2年後に、きちんとした内容で出す方がよい。

*対案2:Journal(特集号)を各論に、まとめの内容のみを本に載せる。

*対案3:地球研ジャーナルがタイミング的に可能であれば、proceedingsにもできるのでは。

ただし、早くても2010年、しかもはじめの方は偉い人の論文を載せるので、はじめの号に地下環境Pの論文を多数載せることは可能なのか?

*質問:Springerとの契約内容および契約の進行状況は?(国際学会の内容を出版するという契約を結んでしまっているのか?)

*質問シンポジウムに出席しない人は出せないのか?

→意見のまとめ

*proceedingをいきなりSpringerで出版しないほうがよい。この対案のメリットは、シンポ参加者以外も書ける、長期的戦略を見れば、きちんとした本をだしたほうが売れる。ただし、出版社との契約内容がまだわからない。Proceedingを作った後、本に書きたい人は本向けの原稿を書けるし、Journalに出したい人はそちらに出すといったように選択の自由度が増すというメリットも期待できる。

*proceedingsの分は、単なる独立した印刷物、地球研Journalあるいはもうすこしきちんとした雑誌の特集号も視野に入れる。その場合、本にする場合のproceedingsからのデータの転用は可能なのかどうかつめてほしい

出版2 (教科書)について

*原案:まず日本語、2010年には英訳を視野に入れる。

*学部学生を対象というが、書き方には幅がある(プロジェクトの成果的な内容なのか、もっとbasicに研究分野のreviewなども含めるのかなど)。対象+中身をもう少し具体的に出してほしい。

→意見のまとめ

*学部生向けなのでbasicな内容がいいのではないかな。先端の研究や専門的な内容では教科書としても使いにくい。これから興味を持ち始めた1,2年生の人に対して、研究への誘いをするような内容が望ましい。(より進んだ内容については、本文中にコラム、豆知識などのコーナーを含めることでも対応できる)

出版3（都市別アジアの都市と地下水）

本の中身の細かな点は吉越先生が中心になり案を練り、金子先生とも意見交換をする。

- *都市ごとに書くのか、ある程度同じテーマで比較をしていくのか。
- *地理学のテキストなら一般向けで似たようなものがあり参考になる。
- *出版2とのすみ分けは？出版社の内容についての意向は？
- *各論言いつぱなしではなく最後にまとめの章があるほうが望ましい。
- *読者を絞って書く方がよい、読者層によって、ハードカバーにするか、ソフトカバーにするか、新書の形にするかを決めるべき。何も全部の出版物をハードカバーにする必要はない。一般向けを狙うなら、テーマ設定がキャッチーであることが大事（地下水はキャッチーでない）。visual面での充実も考慮。
- *出版社の候補としては、古今書院、ナカニシヤ出版（学術向け～一般向けまで）などがある

出版4（手法別地下環境調査法）

- *大明堂は倒産してもうありません。
- *出版2の上級編と位置づければよいのか？（学部上級生～大学院生向け）
- *事典的なものでなく、ストーリーをもった章だてにするのがよい。海外調査をするためのノウハウも載せるという方法もある。（カウンターパートとの交渉、アンケートのとり方、海外調査のアレンジの仕方など）→（cf. 「地域調査事始め」という本（ナカニシヤ出版）などがよい例では。）参考書の一覧などものせる。
- *各章のはじめにアウトプットの一覧や絵があると探しやすい。その後、その絵を作成するためには、○×という手法を△という形で用いた……と文章展開していく。
- *写真アトラスとのリンクがあると面白い→出版6アトラス本の絵を上記のアウトプットの絵として用いる。こうすると、出版6と出版4をリンクさせることが可能。
- *もし出版4を出版2の上級編と考えるのならば、出版4は出版2および出版6とリンクすることになる

出版5（ppt教科書）

意見のまとめ

- *教科書という形で商業出版する計画はやめるべき。→需要は本当にあるのか、著作権の問題等（特に海外の地図）もあるので作るとなると大変
- *それよりもメンバー内でシェア、メンバー＋カウンターパートならば、授業に使ってもよいという形式にするほうが実り多い。データの散逸を防ぐことができるし、その後の授業および論文作成にもつかうことができる
- *特に出版2の教科書とリンクさせて、このパワーポイントをメンバーが行なう授業の副教材にするという方法もあるのでは？（反対意見：教科書2がだいたい形にならないと難しい、講義用の教科書と2の教科書の扱いは多少違うのでは。そもそも「アジアの地下環境」といった講義は設置が難しい）

出版6（写真アトラス）

- *対象は一般向け（子ども～高齢者）
- *1トピックにつき見開き2ページ

まとめ

出版1(台湾シンポ)の方針原案についてはぜひ再検討してほしい

出版2,3,4,6は基本的にやってもよい

出版5(パワーポイント)は必要なし

*2010年9月までに数冊を同時発行するのは非常に大変。

それほど急がなくても、終了2年目の評価に間に合えばいいのでは？

*出版社との交渉次第では、H23年よりも後でも受け入れてくれるかもしれない(事後評価を視野に。)

→ただしプロジェクト終了と同時に出版の資金もなくなる恐れもある

*数冊同時発行と目標を高く設定するのもいいが、優先順位をつけるということが現実的対応として重要ではないか。あまり一度にやりすぎると、かえって質のいい成果の芽をつんでしまう

*本を作る場合、本ごとにまとめ役・責任者が必要。(出版6は都市地理が代表)

*しめきりよりもいいものを作るためにじっくり時間をかける。

-データベースWG

写真アトラス

都市地理が代表者に。

データの公表について

(公表してもよいものか、待ってほしいかどうかを知らせてほしい)

(載せてよいものかどうかの情報(注釈用のテキストをあわせてのせる))

アクセス解析をつける(事後評価に向けて)

*ユーザー登録制にしたほうがよいのでは(最低限メールアドレスがわかる程度)

*白木君がいなくなった場合の引き継ぎは？